

医療機関ごとの治療実績を伝える「病院の実力」。今回は主に4種類ある「心臓外科手術」を取り上げる。最も手術件数が多いのは「バイパス手術」で、金沢大学病院では、脳梗塞の危険を避けるため心臓を動かしたまま実施する「オフポンプ手術」を主流にしている。手術支援用ロボットなど最先端医療機器を使った内視鏡手術により患者の負担が少ない方法も執っている。



渡邊剛教授

従来のバイパス手術は、心臓を止めて人工心臓というポンプを装着していた。しかし、この方法の場合、手術に伴い血液の塊ができ、脳に飛んで脳梗塞を起こす危険性がある。この危険を避けるため、人工心臓を使わず、心臓を動かしたまま手術するのが「オ

心臓外科手術

病院の実力

～石川編II

「オフポンプ」で危険回避

胸に傷を残したくないという患者には、内視鏡を用いる

にも積極的に取り組み、ステントという金網状の医療器具

を入れる「血管内治療」も年約50件行っている。

「オフポンプ手術」。人工心臓を使った手術に比べて術後の合併症は格段に減る。同病院の心臓・総合外科の渡邊剛教授は1993年に「オフポンプ手術」を日本で初めて実施した。

冠動脈の直径は1・5～2ミと細いため、心臓を動かしたままの手術は高い技術が必要になるが、渡邊教授は、これまでの実績が1800件を超える。

「オフポンプ手術」。人工心臓を使った手術に比べて術後の合併症は格段に減る。同病院の心臓・総合外科の渡邊剛教授は1993年に「オフポンプ手術」を日本で初めて実施した。

冠動脈の直径は1・5～2ミと細いため、心臓を動かしたままの手術は高い技術が必要になるが、渡邊教授は、これまでの実績が1800件を超える。

※全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載されています。次回は5月4日「不妊治療」の予定です。

こともある。肋骨の間に直径2センチほどの穴を4～5か所開け、アームの先端に鉗子や内視鏡がついた「手術支援用ロボット」を遠隔操作して行う。渡邊教授によると、国内に4台しかない最先端医療機器だという。



冠動脈バイパス手術を行う渡邊教授(右) (金沢大学病院で)

渡邊教授は、「様々な選択肢から、患者にあったオーダーメイドの治療をする。安心して手術を受けてもらえるよう、疑問や質問にはとことん答えるようにしています」と話していた。

今回のテーマ「心臓外科手術」では、「暮らし健康面」に4種類の手術件数を掲載した。地域版では、手術件数が多い「バイパス手術」と「弁膜症手術」について、手術方法別の手術件数や死亡率など詳細なデータを紹介する。

病院の実力「心臓外科手術」

医療機関別2006年治療実績

病院名	総件数	バイパス手術		弁膜症手術		
		件数() はオフ ポンプ	死亡 率	弁置 換	弁形 成	死亡 率
石川 金沢大	245	105(105)	0.0	35	21	0.0
浅ノ川金沢循環器	81	38(36)	2.6	20	10	0.0
金沢医大	85					
富山 富山大	192	72(68)	0.0	26	2	14.3
富山 県立中央	116	40(36)	2.5	37	8	2.5
福井 福井循環器	236	73(64)	4.1	61	34	1.5

アンケート未回答病院は社会保険事務局への届け出に基づく総件数のみ記載

バイパス、弁膜症、胸部大動脈瘤、先天性心疾患など心臓外科手術を実施した医療機関ごとの合計件数。読売新

■総件数

聞は、年50件以上(2006年)の心臓外科手術を実施したと各都道府県の社会保険事務局に届け出た医療機関にアンケート調査を行い、結果を一覧にした。

回答がなかった医療機関については、社会保険事務局へ届け出た件数を掲げた。ただし、この数字には胸部大動脈瘤手術が含まれていない。

■バイパス手術

狭心症や心筋梗塞を治す手術。人工心臓を使わず、心臓を動かしたまま手術する「オフポンプ手術」を行う医療機関は増えている。表にはオフポンプ手術の件数も、バイパス手術件数の内訳として示した。

表に掲げた「死亡率」は、手術から30日以内に患者が亡くなった割合のこと。日本胸部外科学会の調査によると、平均死亡率は約2・5%で、医療機関によって差がある。重症患者を多く手術している医療機関では高くなるので、単純に比較せず、医師の説明

生活の制約少ない「弁形成術」

を聞く際の参考データとして活用してほしい。

■弁膜症手術

心臓弁に異常がある弁膜症では、悪くなった弁を人工の弁に置き換える「弁置換術」が行われることが多い。しかし、金属製の人工弁を入れると、血液を固まりにくくする薬を一生飲み続けなくてはならない。

弁の形を整える「弁形成術」なら、薬を飲む必要がなく、日常生活への制約も少ない。弁形成術を多く行う医療機関は一般的に、腕の良い医師が多いとされる。表では、それぞれの手術件数を掲載した。

日本胸部外科学会によると、弁置換と弁形成を合わせた弁膜症手術の平均死亡率は3・7%ほどだ。